



千葉県議会議員(千葉市中央区)

# あみなか 肇

明日の県政を変える!

待機児童特集(2012年1・2月)号

〒260-0805 千葉市中央区宮崎町663-2-604

はじめ  
あみなか 肇

プロフィール…

1972年千葉県銚子市生まれ 39歳

学歴

慶應義塾大学法学部政治学科卒業  
政策研究大学院大学政策研究科修了

職歴

千葉市職員・総務省事務官

現在

県議会総合企画水道常任委員会委員



<http://aminaka-hajime.net>

## 千葉県の待機児童、1432人 待機児童解消へ集中的な予算配分を！

平成23年4月1日現在、千葉県内には保育所に入所したくても入所できない待機児童が1400人を超えて存在しています。

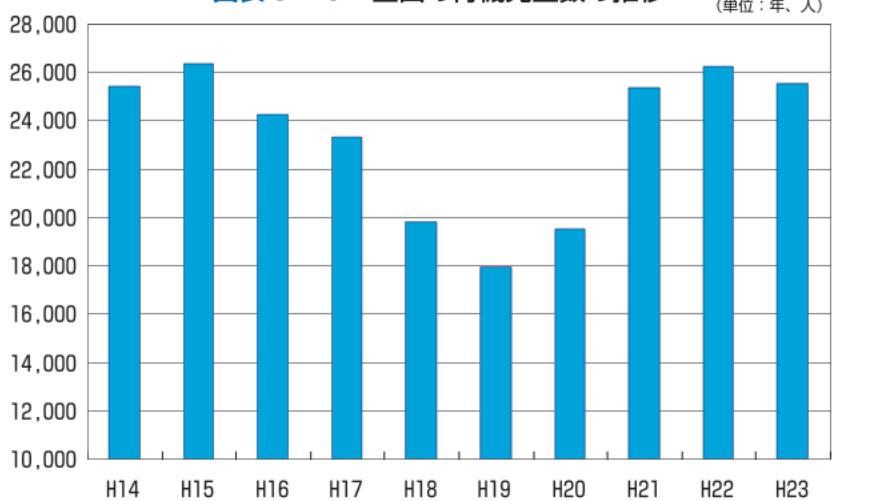
全国的にみた場合、待機児童の特徴として都道府県によって大きく偏在していること、また同じ県内であっても地域によって大きく偏在していることがあげられます。

最も待機児童が多い東京都では約7900人の待機児童がいるにもかかわらず、青森県をはじめとする9つの県では統計上待機児童が存在しません。また、待機児童がいる都道府県でも、都市部には多数の待機児童がいるものの、郊外の市町村には待機児童はいないといった特徴がみられます。

以下で、千葉県の待機児童の現状等について検証し、今後の保育行政のあり方について検討していきます。

### ● 全国的に再び増加傾向の待機児童

図表1-1 全国の待機児童数の推移



図表1-1はここ10年間の全国の待機児童数の推移をみたものです。

平成15年には約2万6000人いた待機児童が、平成19年には約1万8000人にまで減少しましたが、その後待機児童数は増加に転じ、平成22年には再び約2万6000人を超みました。

この原因としては、社会経済状況等の変化、特に平成20年秋のいわゆる「リーマンショック」を契機とする世界的な景気後退の影響によって、共働きをしようとする世帯の増加が、保育所定員の増加を大きく上回ったためと考えられます。

昨年の待機児童数は一昨年と比較してやや減少したものの、2万5000人を超えたところで高止まりしています。

### ● 待機児童の8割は3歳未満児！

図表1-2 全国の年齢区分別の待機児童数

	待機児童数	構成割合
3歳未満児	21,109人	82.6%
0歳児	3,560人	13.9%
1~2歳児	17,549人	68.7%
3歳以上児	4,447人	17.4%
計	25,556人	100%

厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」から作成  
平成23年4月1日現在の数値 東日本大震災のため岩手県、宮城県、福島県の8市町を除いて集計

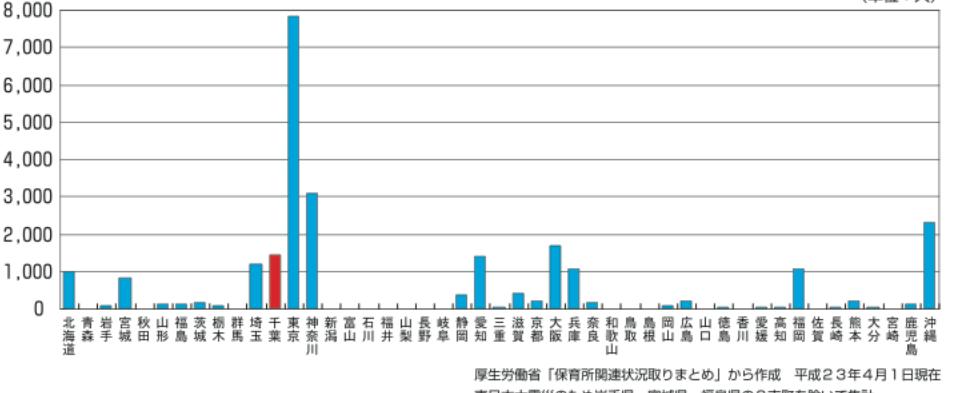
図表1-2は全国の待機児童を年齢区分別でみたものです。

3歳未満の待機児童が全体の82.6%と大多数を占め、その中でもとりわけ1~2歳の待機児童が68.7%と多くの割合を占めることが分かります。

### ● 都道府県によって偏在する待機児童

千葉県はワースト5位！

図表2-1 都道府県別の待機児童数

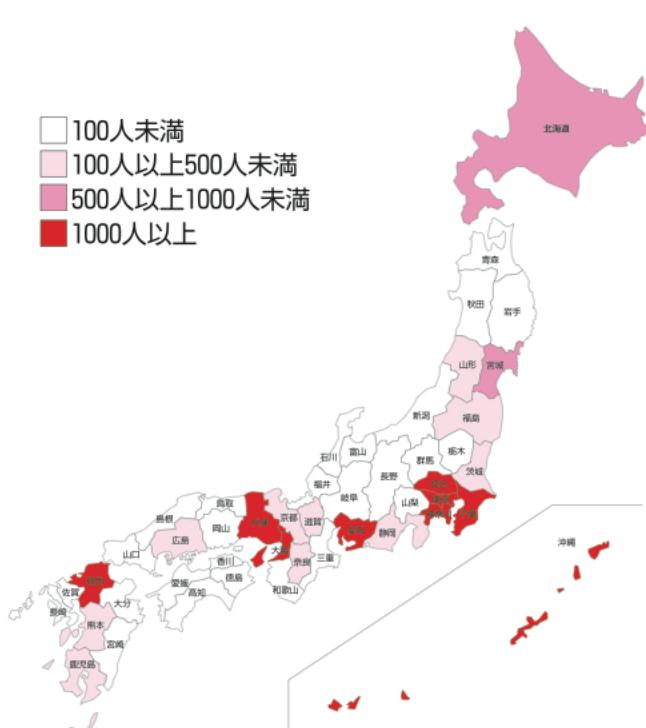


図表2-1は平成23年の都道府県別の待機児童数をみたものです。千葉県の待機児童数は1432人で、東京都、神奈川県、沖縄県及び大阪府に次いで、全国でワースト5位となっています。

その一方、青森県、秋田県、群馬県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、和歌山県、鳥取県、香川県、佐賀県及び宮崎県の15県は、待機児童が存在しないか、存在したとしても10人以下となっています。

これらのことから待機児童は都道府県によって大きく偏在していることが分かります。

図表2-2 都道府県別の待機児童数

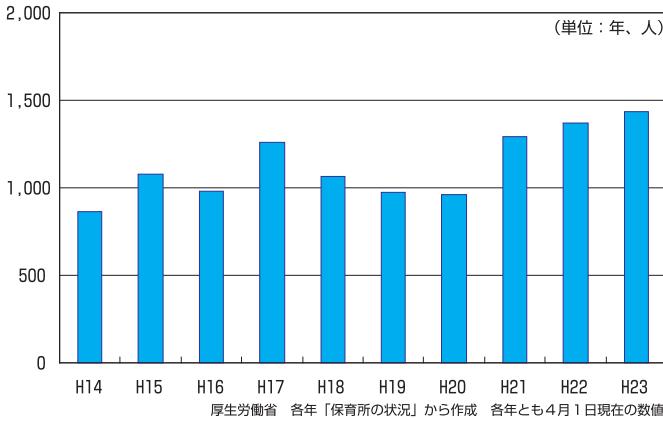


図表2-2は平成23年の都道府県別の待機児童数を地図上でみたものです。待機児童が多い都道府県は、東京都、神奈川県、埼玉県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県など、都市部に多いことがわかります。

厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」から作成 平成23年4月1日現在 東日本大震災のため岩手県、宮城県、福島県の8市町を除いて集計

## 千葉県でも再び増加傾向の待機児童数！ ここ10年で最多の1432人 都市部に多く偏在！

図表3 千葉県の待機児童数の推移



人まで減少しましたが、その後再度待機児童数は増加に転じ、平成23年には1432人にまで増加し、この10年間では最も多くなっています。

この原因も国と同様、経済状況の悪化に伴い、共働きを望む世帯の大幅な増加が原因の一つと考えられます。

図表4-1 市町村別の待機児童数

市町村名	待機児童数
千葉市	350
船橋市	152
柏市	154
鎌ヶ谷市	0
市川市	259
館山市	0
木更津市	0
松戸市	94
野田市	16
茂原市	0
成田市	11
佐倉市	40
東金市	10
旭市	0
習志野市	38
勝浦市	0
市原市	74
流山市	43
八千代市	0
我孫子市	0
鴨川市	0
鎌ヶ谷市	51
君津市	0
富津市	0
浦安市	63
四街道市	24
袖ヶ浦市	1
八街市	9
計	1,432

厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」から作成 平成23年4月1日現在

図表3はここ10年間の千葉県の待機児童数の推移をみたものです。

平成14年には約860人いた待機児童が、平成17年には約1250人にまで増加し、その後平成20年には950

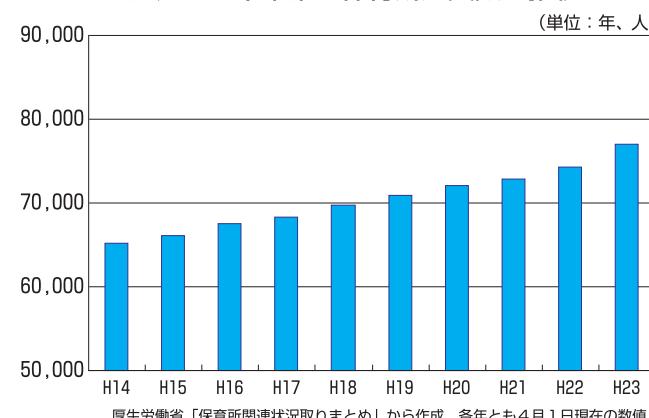
- 18年に300人を下回ったものの、その後平成23年まで300人を超えるところで高止まりしています。平成23年はここ10年では最も多い350人の待機児童数となってしまっています。

## 保育所の定員増を図る県内自治体

県内では1年当たり1200人規模で定員を増加



図表6 千葉県の保育所定員数の推移



人まで減少しましたが、その後再度待機児童数は増加に転じ、平成23年には1432人にまで増加し、この10年間では最も多くなっています。

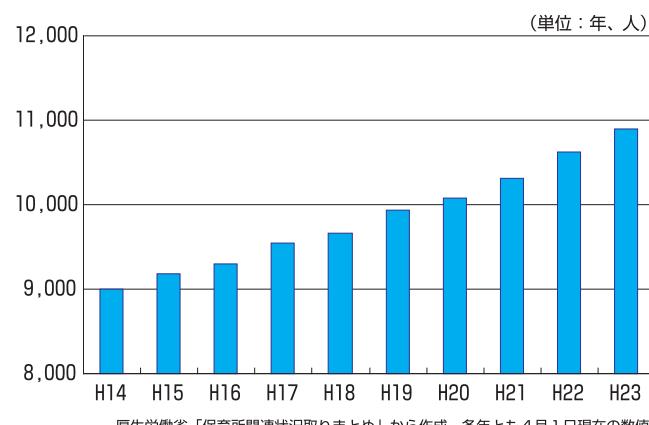
この原因も国と同様、経済状況の悪化に伴い、共働きを望む世帯の大幅な増加が原因の一つと考えられます。

つまり、10年間で1万2千人、1年当たりにすれば約1200人規模で定員の増加を図っていることになります。しかし、図表1でみたとおり、県内では毎年約1000人強の待機児童がいます。

これらのことから、ここ10年間の県内の潜在的な待機児童数は保育所の増加した定員分をかなり上回って存在していることが分かります。

## 千葉市では1年当たり200人規模で定員を増加

図表7 千葉市の保育所定員数の推移



厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」から作成 平成23年4月1日現在

千葉市においても、特にここ2年間は約300人ずつの大幅な定員増がなされるなど、増大する待機児童に対応すべく精力的に保育

所の整備をすすめた結果、保育所の定員は平成14年には約9千人だったものが、平成23年には約1万1千人と2千人近い定員増が図られています。

つまり、10年間で2千人、1年当たりにすれば約200人規模で定員の増

加を図っていることになります。しかし、図表5でみたとおり、市内では毎年

約300人強の待機児童がいます。

これらのことから、千葉市においても、ここ10年間の市内の潜在的な待機

児童数は保育所の増加した定員分をかなり上回って存在していることが分か

ります。

## 待機児童解消に向けて、集中的な予算配分を！

以上みてきたように、経済情勢の悪化及び女性の就業傾向の高まりなどによ

って、核家族化した子育て世代が多く住む都市部において、待機児童が多く存

在しています。

また、多くの場合は3歳未満児、とりわけ1～2歳児の待機児童が多く存在

しています。

これらの待機児童を減らすためには、認可保育所の新設・増設・改築等によ

る定員増、認可外保育施設等の拡充及び利用促進、認可保育所の定員の弾力的

運用、家庭的保育事業（旧：「保育ママ」制度など）の拡充及び利用促進、幼

稚園の活用（預かり保育等）、事業所内保育所の拡充等などが考えられます。

私たちは、待機児童を無くすため限られた財源の中で、これらの分野への思

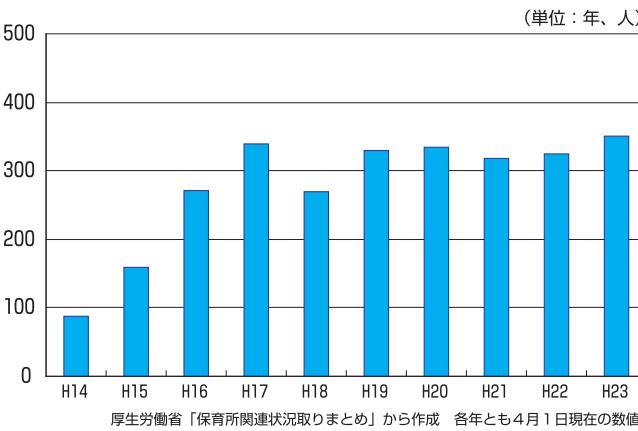
い切った集中的な予算配分に努める一方で、少子化を踏まえた今後の保育ニ

ーズも考慮しつつ、柔軟な保育サービスの提供について考え、求めていかなくて

はなりません。

## 千葉市では微増の待機児童数！ ここ10年で最多の350人

図表5 千葉市の待機児童数の推移



図表5はここ10年間の千葉市の待機児童数の推移をみたものです。

平成14年には100人を切っていた待機児童が急増し、平成17年には300人を超えるまでに増加し、平成